

全国各地で野球指導、町興しにも貢献

元早稲田大学野球部、元プリンスホテルの監督

石山建一さん
Kenichi Ishiyama



静岡市にゆかりがあり、東京を拠点に内外で活躍する皆様に、東京から見た静岡市の良さと可能性、まちづくりの方向について、ご提案いただきます。

西武球場の設計を助言

中学時代から登校前に久能山東照宮石段1159段の駆け上がり、腕立て伏せ200回などを日課とし、母校静岡高校では主将兼遊撃手として第42回夏の甲子園大会準優勝に貢献した。

石山さんは、西武球場（現西武プリンスドーム）の設計アドバイザーを務めたことでも知られる。東京六大学野球や都市対抗野球大会などでの活躍ぶりが堤義明西武

鉄道グループオーナー（当時）の目に留まり、直々に頼まれた。

「オーナーから球場の建設場所はどこがいいかと聞かれ、私は後楽園（巨人軍の本拠地）に対抗して豊島園はどうですかといったんですよ。そしたら、あそこは東京都管理の川があつて勝手に建てられないつて。所沢の車両工場跡地も候補に挙がっていたのですが、周りが住宅地で駐車場の確保ができません」と。

暫くしてオーナーから現在の場所での球

経歴

静岡市駿河区生まれ。県立静岡高校卒業。早稲田大学商学部卒業。日本石油に入社、遊撃手として社会人ベストナイン。その後、早稲田大学野球部監督、プリンスホテル監督で日本一。1995年、長嶋茂雄監督の招きで巨人軍入団、編成本部長補佐兼2軍統括ディレクターに就任。2000年、アマチュア資格を取得。72歳。東京六大学リーグ戦優勝2回、社会人全国大会に計7回優勝。岡田彰布、山倉和博、石毛宏典、石井浩郎、宮本慎也ら多くのプロ野球選手を育てる。野茂の大リーグ入りをいち早く勧めた。現在、小学生から大学生に至るまで全国各地で野球指導や講演活動が続ける。

場建設を相談された。「現場を見たら、今のホームベースがセンターの位置でした。私はユネスコ村や秩父連山も見えて、お客さんの観戦しやすい方がいいと思ひまして、向きを正反対に変えた方がいいと進言し、よしそれでいこうとなつたんです」。

その時、石山さんは「球場周辺は狭山湖や多摩湖があり雨の通り道だ」と直感し、設計担当者に将来のドーム設置を考え、さらにプロ球団の本拠地として使えるように室内練習場や合宿所、第2球場の施設設計をひそかに依頼。その後、クラウンライターズから球団を買った（現埼玉西武ライオンズ）時に、この時の設計図があつたために、ドームや室内練習場など関連施設の整備がスムーズに進んだのだ。

定評ある選手育成

選手育成には定評があり、全国各地からコーチを依頼されている石山さん。「これは日の当たらない選手やチームをひのき舞台に立たせてやりたい」と話す。

「廃校回避と野球で町興し」を依頼され、約3年前から埼玉県小鹿野町にある県立小鹿野高校野球部の指導にも当たっている。石山式指導で今では県内強豪校と互角の戦いができるまでに。野球が強くなくなったことで「今年は新入生が倍増したそうです。町民一丸となってバックアップしてくれています」と、町興しにも手ごたえを感じている。

（文・写真：長田義明）